

# 平成 24 年度 総務文教常任委員会行政視察報告書

平成 24 年 10 月 22 日

1. 日 程 平成 24 年 7 月 25 日(水)～27 日(金)
2. 視察先 北海道・恵庭市 人口 68,754 人(平成 24 年 3 月末日現在)  
北海道・伊達市 人口 36,283 人(平成 22 年 4 月 1 日現在)
3. 視察事項 恵庭市 「恵庭市子ども読書プランについて」  
伊達市 「特色ある教育について・総合体育館について」
4. 視察者 一行 9 名  
委員会 広野豊作 委員長 田沢弘一 副委員長  
滝沢茂秋 委員 中野元栄 委員 高橋禧雄 委員  
樋口博務 委員 安武秀敏 委員  
  
当局 市川修平 図書館長  
随行 吉田和実 議会事務局主査

## 恵庭市

### 【市の概要】

恵庭岳(アイヌ語のエエン・イワ=鋭くとがった高い山)を語源とする恵庭市は、石狩穀倉地帯の一角札幌市の南、漁川沿いに農林業を中心に発展したまちである。さらに戦後は自衛隊駐屯地の開設で活気づき、最近では電車で札幌市内へ 23 分、新千歳空港へ 13 分という良好な交通環境から宅地開発や企業立地が活発で、道内有数の成長都市として発展している。

主な施策は、工業団地「テクノパーク」の整備をはじめとする産業振興とともに北海道文教大学や北海道ハイテクノロジー専門学校などを立地、芸術文化施設及び住宅地や商店街を花で彩って楽しむ「花のまちづくり」活動など生活環境を整備して商業・文化・情報など都市機能の整備とともに、柏木川や自然林を活かした水辺空間づくりを進める総合文化都市である。

江戸時代中頃、本土から移住してきた人々により開発が進んだこの地が今改めてハイテクの先端を走る先鋭として注目され、持ち前の開拓魂を存分に活かして少子化時代の安心をテーマにコンパクト生活都市を目指している。

### 【恵庭市子ども読書プランの概要】

#### ■ 目 的

「豊かな人間性は読書によって育まれる」の理念の基「恵庭市子ども読書プラン」を立ち上げ、赤ちゃん時代から取り組むシステムを構築するとともに、家庭・地域・学校・図書館の推進環境を整備して“日本一の読書の町”を目指す。

#### ■ 施 策

<タイトル> 「子どもが本と出会うまち 恵庭」つなげよう・ひろげよう・育てよう

#### <事業経緯>

- ・2000年 ブックスタート実施(全国自治体初)
- ・2003年 生涯学習部・図書館部2部制開始(学校図書館を図書館が所管)
- ・2004年 すべての小学校(8校)に専任学校司書を配置
- ・2005年 「恵庭市子ども読書プラン」「学校図書館ステップUPプラン」策定
- ・2006年 すべての中学校(5校)に専任学校司書を配置
- ・2007年 文部科学省事業「読む・調べる習慣の確立に向けた実践研究事業」を受託(2ヵ年)

#### <推進会議>

- ・事務局 市立図書館
- ・構成 幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校・専門学校・大学  
読み聞かせボランティア団体、家庭、地域
- ・協議事項 目標の確認、現状と課題について、その他

#### <実践活動>

- ・ブックスタート 読書習慣の芽生え、ブックスタートプラス
- ・学校図書費の大幅増強 読みたい本・朝読書の本がある図書館
- ・マッチングギフト 寄付額を倍にする市の補助制度
- ・ボランティア 小・中学校市内全域に図書ボランティア、男性読み聞かせ隊など
- ・読書活動 「朝だ、読書だ、恵庭っ子」朝読書・読書登山・読書貯金・読書ラリー・学級文庫
- ・読み聞かせ 先生が交代で参加、子ども同士(上級生が下級生に、中学生が幼児に)

#### <実績評価>

- ・システムのネットワーク化 市立図書館と各学校間を配本車が毎日運行
- ・図書36万冊の共有 市立図書館25万冊、小・中学校11万冊
- ・生活リズムの形成 落ち着き、集中力、家庭読書の定着「家読(うちどく)」

#### <課題>

- ・小学校図書館で年間貸し出し数一人100冊の目標を達成するための対策が必要。
- ・平成16年度では15.2冊。理由は「本が古い」…量的整備から質的整備へ。
- ・市立図書館と学校図書館図書の共有化…保育園・幼稚園を含むネットワーク化。
- ・校長先生を筆頭とする運動強化へ、学校図書館専任職員の配置。
- ・厳しい財政事情の克服…市民の寄付が大きく生かされる仕組みづくり。

### ■ 所 見

1992年にイギリスから始まったブックスタート事業がいま、日本では恵庭市を初めとして全国方々に広がりつつある。乳児健診時に配布される2冊の絵本と、親しく読み聞かせる時の触れ合いが豊かな人間性を育むことの意義は疑う余地もない。しかし、先に視察させていただいた境港市の事例も含めて厳しい財政事情の対策など課題も多い。しかるに「自分が学校図書館のために寄付したお金が、倍となって資料費に追加される制度あれば喜んで協力していただけるのではないか」等々、様々に問題解決に向けた工夫を模索しておられた。また、「男性読み聞かせ隊」などボランティアの取り組みも積極的で頼もしい。このようにして、皆で汗かく姿がもう一つの“手本”として慕われ、開花する日がきっと来ると信じてやまない。“日本一読書のまちをめざして”頑張ってください。

## 伊達市

### 【市の概要】

——仙台藩伊達家一門の気高い意気を受けて発展しているまちである。明治維新の動乱期に起こった奥羽の乱により朝敵の汚名を受けて削封失禄した仙台藩一門の逞しい意気を汲む苦節の歴史を綴るまちである。

以後心機一転、住民の安寧を願った時の当主伊達邦成は北海道開拓を出願し、明治2年8月有珠郡支配の命を受けた。翌3年3月から14年まで、9回にわたって役2,650名が移住を果たし、有珠山の火山灰に覆われた荒地を開墾して、道内有数の農村地帯として他地域に範を垂れ、北海道開拓史上に金字塔を建ててに至った——

市域は、444.3㎢で北海道の南西部に位置し、有珠山周辺及びホロホロ山周辺が支笏湖爺国立公園に指定されており、この辺りは内陸型山間部にて積雪も多いが、内浦湾(噴火湾)に面した平地は比較的温暖な土地で“北海道の湘南”の異名を持つ。したがって、恵まれた自然環境による各種野菜の農業を基盤に商工業その他の産業が振興し、北海道の産業の縮図として評価が高い。さらに近年は、再生可能エネルギーの開発にチャレンジするなど次世代の環境問題に取り組み、理想郷建設に余念がない。

### 【伊達市特色ある教育についての概要】

#### ■ 目的

教育の理念を基に重点推進項目を掲げ、学校生活の実践を通して実効を挙げるとともに問題点の把握と解決を図り、目標達成を目指して邁進する。

#### ■ 推進項目

- |               |   |
|---------------|---|
| ①確かな学力の向上     | 各種学力検査の分析を踏まえた学力向上プランの策定<br>基礎学力定着に向けた具体的な方策の実施と結果の検証等    |
| ②豊かな心の育成      | 豊かな感性を育む視点での道徳教育全体計画の見直し<br>道徳の時間の授業改善に向けた校内研修の実施等        |
| ③健やかな体の育成     | 体力・運動能力テストの計画的な実施と結果の分析<br>食の指導に関する全体計画の見直し・充実等           |
| ④特別支援教育の推進    | 個別の指導計画・教育支援計画作成に向けた取組の推進<br>教職員を対象とした研修(学習)会、事例交流会の実施等   |
| ⑤生徒指導体制の充実    | 教育相談の充実を図る視点での、生徒指導全体計画の見直し<br>子どもに自己存在感を与える学年・学級経営の推進等   |
| ⑥開かれた学校づくりの推進 | 学校評議員の目的・役割等の点検、見直し(実効性重視)<br>学校関係者評価の充実と、評価結果を受けた改善策の公表  |
| ⑦安全管理に対する取組   | 津波等の災害にも対応し得る、危機管理マニュアルの作成<br>校区安全マップに沿った現場の確認と、安全マップの更新等 |
| ⑧その他          | 情報機器活用マナーに関する指導計画作成と指導の充実<br>地域の産業施設等を活用した、環境教育の推進等       |

#### ■ 評価と課題

各学校が全項目に取り組み、それぞれに一定の評価を挙げながら問題点を抽出し、今後の課題として提出された。その中で注目されるのは、道徳や健康問題については特に家庭との連携が不可欠だが、協調的取り組みに戸惑う姿が散見され推進の難しさを認識した。

一方、パソコンや携帯電等、子どもが日常使用する情報機器が絡んだトラブルが年々増加しているが、保護者のマナー指導が行き届かない点をカバーする手立てについて、事例に基づいた使用上の留意事項・管理の在り方・トラブルの事例等、むしろ学校が持っている情報を提供することで指導補完の利点も大きく、今後の連携効果に期待を寄せている。

## 【伊達市総合体育館についての概要】

### ■ 目的

日常は、屋内の各種スポーツ競技大会や練習および、レクリエーション活動を進めて健康増進と憩いの場に活用するとともに、有珠山の噴火など非常時の際は、避難所として運用することにより市民生活の安全と安心を確保し、さらに広域避難地と救援の機能を有する施設として防災拠点を司り、総面積 17.7ha に及ぶ総合公園のシンボル「防災公園だて歴史の杜」の一環とする。

### ■ 施設

<メインアリーナ> 面積 1,809 m<sup>2</sup> 天井高 12.5m

バスケットボール 2 面、 バレーボール 3 面、 バトミントン 10 面、 卓球 12 面、  
ステージ最大 86 m<sup>2</sup>

<サブアリーナ> 面積 740 m<sup>2</sup> 天井高 7m

バスケットボール 1 面、 バレーボール 1 面、 バトミントン 4 面、 弓道、  
その他軽スポーツ

<ランニングコース> 200 メートル (幅 2m)

<観客席> 固定席 604 席 車椅子スペース 24

<その他> ニューススポーツコーナー、多目的室 3 室通可能、会議室、幼児コーナー、  
更衣室・男女各 1 ヲ所、ロッカー各 144 個、シャワー各 6 ブース  
身体障がい者用 多目的シャワー室 2 ヲ所、 冷暖房・床暖房

<使用料金> 省略 (事務局保管資料参照)

<運営> 指定管理者 NPO 法人・伊達市体育協会

### ■ 防災関連計画

<用水の確保>

新設屋内プールに耐震性貯水槽の機能を持たせ、災害時における避難者の生活用水として利用し、さらに既設の修景池と井戸を救護用生活用水として利用する。

<避難者収容人数>

長期避難滞在施設として、隣接する既設のカルチャーセンターに 420 人、メインアリーナに 600 人、サブアリーナは救護物資の保管庫として使用する。

### ■ 所見

「特色ある教育について」及び「総合体育館について」の視察は、図らずも旧伊達藩の気高い気質と触れ合う貴重な機会だった。両事業とも幅広い視野をもって展開するも特に地域の“特色”にこだわった取り組みが印象的である。開かれた学校づくりへ一般の人たちにも公開する姿勢や、太陽光発電施設を小学校 2 校及び中学校 1 校に導入して積極的に環境教育を進める姿勢は、次世代に向けて持ち前の開拓意欲を醸成する意気込みが感じられて頼もしい。また有珠山の噴火による被害を受けて防災意識の高い市民性も合わせ持っている。この苦い経験を活かして進めている「防災公園だて歴史の杜」構想は、未来志向を典型的に描いた傑作であろう。これら一連の活動に共感を覚えると同時に更なる発展を祈念してエールを送り、あらためて伊達市のご協力に感謝申し上げたい。